

モデル事業名	町並み景観修景整備事業と一体となった伝統文化「越中おわら風の盆」が映えるまちづくり事業	
活動団体名	一般社団法人 越中八尾観光協会	
ホームページ	http://www.yatsuo.net/kankou/	
所属/ 担当者名	副会長 杉山峰夫	
連絡先	電話番号 076-454-5138	Eメールアドレス kankou02@cty8.com
活動地域	富山県富山市八尾町 八尾地区(旧町)	

● 活動地域の概要

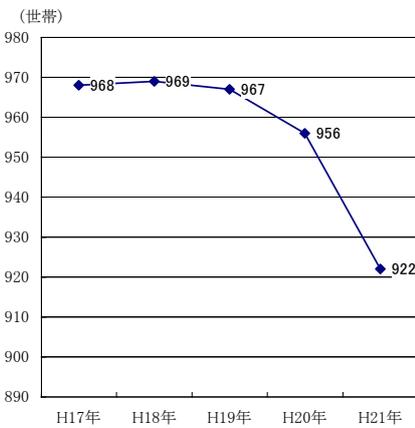
【位置図】



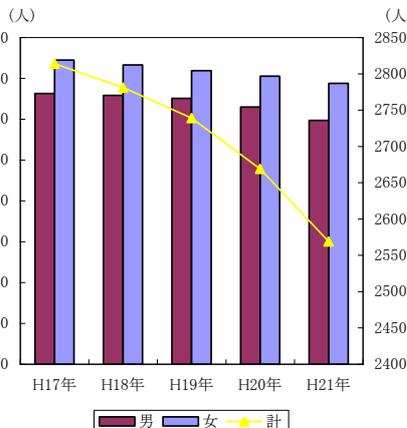
【公共交通に関する状況】

- ・富山市（行政）において平成 18 年 10 月から JR 西日本・高山本線の増便社会実験が行われている（平日 1 日あたりの運行本数を 36 本から 50 本に増加、朝夕は 30 分～1 時間に 1 本の運行を 30 分に 1 本に、昼間は 1～2 時間に 1 本の運行を 1 時間に 1 本へとサービスを改善）。また越中八尾駅ではパーク＆ライドが実施されるとともに、端末交通としてバスの運行も始まった。
- ・さらに利用促進策として駅舎外壁の塗装、ラッピング列車運行、駅のトイレ・駐輪場整備、地域とのイベント連携、PR の強化、回数券購入補助等の対策が実施されている。
- ・総合行政センター、八尾駅等を起点に公営コミュニティバス（1 日当たり計 61 本運行、1 回 100 円）が地域内の放射状ネットワークを形成している。また地域生活拠点と都心（富山市中心市街地）を結ぶ民間公共交通であるバス路線を確保している。

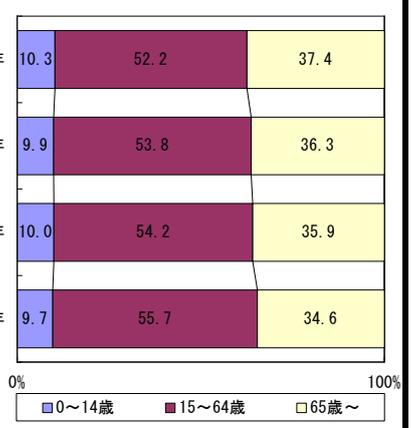
八尾地区(旧町)世帯数の推移



八尾地区(旧町)男女別人口の推移



年齢層別人口割合の推移



(まち並み整備が進む。一方、高齢化率が年々上昇する八尾地区)

【八尾地区(旧町部) 男女別人口】

	H17年	H18年	H19年	H20年	H21年
男	1325	1316	1302	1259	1194
女	1489	1465	1437	1410	1375
計	2814	2781	2739	2669	2569

かつて富山県有数の商業地として栄えた八尾町の中心市街地（旧町）は、昭和 30 年代から核家族化が進み、他地域への世帯移転、ひいては人口減少が続いた。最近 5 年間の世帯数及び人口の推移をみても、ともに減少傾向となっている。さらに少子高齢化の進行にともない伝統文化の継承や「活力あるまち」のシステム維持が一層厳しくなることが予想される

● 活動地域の課題

超高齢化や人口減少の影響により、このままでは伝統文化の保存・育成、継承はおろか、町の賑わい・活力は衰退し、近い将来、空き家の増加や商店数の減少が一段と進行するなど、町内の維持にも厳しい局面をむかえることが予測される。そのため課題は、住をとりまく環境の整備や若年層・中間層・高齢者層の人たちが互いに協力し合い住み続けられる地域社会の仕組みづくりにより定住人口を増加すること。また地域資源のPR・活用を地域経済に反映させるべく具体的な且つ実践的な観光振興（一年を通しイベントを数多く開催、観光協会が地域の人たちと積極的にかかわり相互協力によるイベントの開催）により交流人口を増加することである。

● 活動の内容

平成20年度

- ・おわら鑑賞プログラムと体験プログラムのコラボレーション
- ・顧客ターゲットを定めた観光客の誘致
- ・土産品の開発・販売
- ・温泉バスの試験運行

平成21年度

- ・語り部や観光ガイドの人員増を図り、育成プログラムを作成
- ・ホームページ及びパンフレットを改定し、旅行会社へのセールスプロモーションの実施
- ・公有財産（民間から寄付を受け、現在空き家となっている）を活用し、モデル飲食店を作るための勉強会
- ・運行ルート、車内での案内（八尾のPRや車窓から見える景色についてガイド等）の検討

● 活動の成果

・平成20年度

地域の伝統芸能が観光に活用されるのは、地域の多くの住民に理解され難いことであったが、超高齢化と少子化が進行とともに地域の活力が衰退し、地域が生きのこりかけなければならなくなった現状を地域住民が肌で感じている。その折、「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業の委託を受け、地域の活路を見出した。



座敷でのおわら鑑賞と食のコラボレーションの実験を繰り返し実施できたことにより、今後の自主運営に費やす「人、施設、資金等」について把握することができた。また、問題点、課題・課題克服策など検討すべき点が明確になり、コミュニティ創生を前進させることができた。さらに、観光ガイドの配置や体験ツアー商品、語り部プログラム、温泉バスの運行など住民協働の成果もツアーに組み込むことで、八尾の魅力を一層引き出すことが可能であることが分かった。

・平成21年度

- ・地域の伝統芸能、すなわち地域資源を観光に活用することが住民に理解つあることにより、観光協会が中心となって育成している観光ガイド（ボランティア）や語り部の数も増え、観光客のニーズに少しずつではあるが、対応できるようになった。
- ・座敷での「おわら鑑賞」と食のコラボレーション企画が旅行会社数社に受け入れられ、まだ実施件数は少ないものの、住民（おわら保存会各町支部の人たち）との協力で、「おわら風の盆」の期間外に（年間を通じ）実施できるようになった。



- ・観光協会が中心となって観光関連グッズの開発を住民、商工会、農業関係者等と交え、研究会を開催するなど、住民及び各種団体と円滑に連携をとっている。

● 今後の課題及び展望

・課題

付加価値のある旅行商品（サービス）を組み合わせ、構成、プログラム化し、自主運営に必要な経費を賄う収入を得るシステムを確立することである。そのため、旅行商品（サービス）ごとに所要時間の設定、費やす資源の確保・投入、販売戦略に基づく価格設定を行っていく。また、自主運営の見通しが立った段階で、住民、行政、各種団体に事業の詳細を公表し、協働によるコミュニティ創生を促進する。

・展望

住民協力の体制を維持するため、観光協会がリードして八尾地区の各町内に「まちづくり」を考える組織をつくり、活動を促進する。